

「向こう三軒両隣」からつながる地域づくり

第 4 次  
与北地区地域福祉活動計画書

令和 3 年 3 月

与北地区社会福祉協議会

与北地区地域福祉活動計画策定委員会

「与北地区」第4次地域福祉活動計画 年次計画

福祉目標	「向こう三軒両隣」からつながる地域づくり
------	----------------------

事業計画	3年度	4年度	5年度	6年度
------	-----	-----	-----	-----

	外出支援事業 [継続]	-----▶ 利用者を多くする。
目的	閉じこもり防止、介護予防を目的に高齢者等の生きがいつくり、社会参加を促進します。	

	②見守り活動ネットワーク事業（安否確認事業） [継続]	-----▶ 福祉協力委員と民生委員との連携による見守り活動。
目的	地域に住む要援護者が孤立しないよう、また困っていることはないかなど、日常生活の中でのさりげない見守り活動を進めます。気になる状況の人がいたら、民生委員や市社協に連絡するなど、互いに支え合いや見守りあいのできる孤立のない地域づくりを目指します。	

	③給食サービス事業 [継続]	-----▶ 衛生面と安全に留意。メニューの検討
目的	在宅で暮らす高齢者等のお宅へ安否確認やつながりを目的として、月1回手作りのお弁当を届けます。	

	④ふれあいいいききサロン事業 [継続]	-----▶ 実施内容の充実を図る。
目的	自治会などの小地域ごとに介護予防、生きがいつくりを目的として、歩いて行ける場所（集会所等）で、地域の高齢者等が集まり、茶話会などふれあいの場をつくりまします。	

	⑤一人暮らしの高齢者昼食会等 [継続]	-----▶ 年2回（会食会と1日旅行）実施する。実施時期・方法については飲食を伴うため、新しい生活様式のなかで検討する。
目的	閉じこもりがちな独居高齢者を公民館に招待し昼食会を実施。また1日旅行を通じて高齢者同士や地域の人々と交流を深めます。	

事業計画	3年度	4年度	5年度	6年度
------	-----	-----	-----	-----

⑥園児・児童との栽培体験事業 [継続]	-----▶ 栽培地が学校に近いので、日頃の中で子供たちに収穫までの作業を観察してもらう。
目的	幼稚園児・小学生と社協役員・ボランティア部員がさつま芋を栽培体験学習することにより、子供たちと地域の人々交流を深めます。

⑦地区社協組織の強化 [継続]	-----▶ 各種団体との連携。地域福祉活動について一緒に考える機会をつくる。
目的	住民や各種団体が地域の福祉課題などについて話し合う場や機会をつくり、連携して活動し、そのことにより地域全体の福祉力を高めます。

⑧ボランティア組織づくりと活用 [継続]	-----▶ 声掛けなどボランティア活動できる人材の確保に努める。
目的	地区社協活動をより活発に推進するため、年1回でも参加できるボランティア部員など人材の発掘と育成を図り、効果的な活動ができるようにします。

⑨広報誌の発行 [継続]	-----▶ 実施に向けて検討。
目的	地区社協活動や各種団体の活動など、広く住民に情報を発信し、地域福祉活動の理解を深め、参加者・協力者を増やします。

⑩地区支え合い会議の実施 [継続]	-----▶ 福祉協力委員と民生委員との情報交換会の実施。個別課題について随時関係機関と開催する。
目的	見守りネットワーク事業等が出てきた地域の課題、個別の生活課題などを近隣住民、福祉協力委員、民生委員、福祉サービス提供している専門職や施設、病院などを含め、一緒に考え、誰もが安心できる地域づくりを目指します。

## [地区の自慢] (コラム)

与北地区社協では、各自治会ごとに福祉協力委員が選出されています。

福祉委員さんの役割は、独居高齢者を対象にした月 1 回の給食サービス事業の手作り弁当の調理をおこない、民生委員の方々と協力して配達しております。利用者の方には大変よろこばれております。

また、そのつながりを通じて、安否確認事業や、ふれあい・いきいきサロン、高齢者等外出支援事業など、地域福祉活動をささえており、お年寄りや地域の安心のために、活躍されております。



また。ボランティア組織もあり、給食サービスの調理の応援や、園児・児童のさつまいも栽培体験事業の応援団として、農業をしている方など地域住民により活躍されています。

